

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： **生殖補助医療技術教育研究センター**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標 (1)大学院教育プログラムを整備する。 (2)リカレント教育を実施する。 (3)実習プログラムの充実と機器の整備を図る。	自己評価 (1)大学院教育プログラムを、平成27年度から開始出来るよう環境生命科学研究所の特定プログラムとして整備を図った。 (2)リカレント教育として、「胚培養士のためのキャリアアップ双方講座プログラム」(全8回)を、本学の東京サテライトオフィスにおいて公開講座形式で実施した。実施に当たっては、事前アンケートを実施し、今回の講座に反映させるとともに、事後アンケートも行い、来年度以降のリカレント教育に活かせるよう分析を行った。また、e-learning学習システムを導入し、受講者(特に欠席者)のフォローを行い、十分な受講成果が得られるよう配慮した。3月15日には、グランフロント大阪において、近畿大学生物理工学部と共催で「胚培養士のためのリカレントセミナー」を開催した。 (3)インターンシップ研修プログラムについて検討を加え、実習内容の標準化と評価基準の改善を行い、充実を図った。また、リアルタイムPCR、オールインワン蛍光顕微鏡等を新たに導入し、生殖細胞解析系実習等の充実を図った。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 (1)リカレント教育として、首都圏で公開講座を実施する。 (2)生殖細胞解析系実習を充実させる。	
②研究領域	
②-1 目標 (1)生殖補助医療技術者資格に関する研究を推進する。	自己評価 (1)1月25日に公開シンポジウム「生殖補助医療における安全・安心～その向上に向けて～」を岡山大学50周年記念館において開催し、生殖医療技術者の資格や教育に関する研究を推進した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 (1)生殖補助医療技術者資格に関するシンポジウムを開催する。	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 (1)生殖補助医療技術の普及のため、リカレント教育を実施する。	自己評価 (1)生殖補助医療技術の普及のため、公開講座形式で「胚培養士のためのキャリアアップ双方講座プログラム」(全8回)を本学の東京サテライトオフィスにおいて実施するとともに、グランフロント大阪においても近畿大学生物理工学部と共催で「胚培養士のためのリカレントセミナー」を開催し、リカレント教育に努めた。 社会貢献活動の一環として、中高生向けの体験授業「中高生のための生殖医療体験授業～精子や卵子を見てみよう～」を11月24日に岡山大学Jホールにおいて実施、また、8月8日のオープンキャンパスでは、胚培養士になるためのコース説明会を体外受精のデモも含めて実施し、中高生の時期から生殖医療に関する理解を深めることができるよう努めた。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 (1)リカレント教育として、首都圏で公開講座を実施する。	
④センター業務	
④-1 目標	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
平成25年10月に設置されて以来、順調に生殖補助医療技術キャリア養成教育研究拠点の開設事業を実施してきた。本年度、1月26日には日本を代表する生殖補助医療技術関係者を外部評価委員として招聘し、中間評価会を実施したが、各委員から非常に高い評価を受けた。今後も、少子高齢化が進む我が国の社会的要請に応えるべく事業を推進していく予定である。	